

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	高齢者の生活の場づくり小委員会		主 査 名：三浦昌生 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：吉野 博
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・本小委員会の委員が分担して各章の執筆と査読を行い、単行本「Q & A で綴る 高齢者の生活の場づくり～環境的要因から(仮題)」を刊行する。		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：三浦昌生(芝浦工業大学) 幹事：光田 恵(大同工業大学工学部) 委員：五十嵐由利子(新潟大学) 井上容子(奈良女子大学) 加藤雄一(大林組) 小松幸夫(早稲田大学) 野部達夫(工学院大学) 平林敦史(中央法規出版) 福多佳子(中島龍興照明デザイン研究所)、藤本一壽(九州大学)、松原斎樹(京 都府立大学)、村松 宏(日建設計) 渡辺充敏(大林組)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 単行本「Q & A 高齢者の住まいづくりひと工夫」(中央法規, 2006.9)
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称) シンポジウム「高齢者の室内環境～快適な生活を支援するために」 2006.10.31 開催, 参加者数 59 名 (資料名)「高齢者の室内環境～快適な生活を支援するために」
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 目標とした単行本の刊行を達成した。 2. 当初の予定にはなかったシンポジウム「高齢者の室内環境～快適な生活を支援するために」を開催し、小委員会成果の周知に努めた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 刊行した単行本の修正(増刷に際して) 2. 高齢者の室内環境を題材とした新たな刊行の企画 3. 高齢者施設的设计への参加

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価
(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>総合評価を A とした理由は下記のとおり。</p> <p>単行本「Q & A 高齢者の住まいづくりひと工夫」については</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の介護職員や在宅高齢者のヘルパーに対して、健康で快適な室内環境を形成するためのノウハウを平易に解説した。 2. Q & A 方式を用いることで読みやすくわかりやすいことに配慮した。 3. 本書を、福祉関係の書籍やテキストを得意とする中央法規から出版した。これまで、建築学会の委託出版物は、建築系や技術系の出版社から刊行されてきたが、本書は学会として初めて福祉系の出版社から刊行した。書店の建築コーナーではなく福祉コーナーに並ぶ本となり「社会に開かれた学会」にかなう。 4. 本書は、環境設計運営委員会の傘下にあった福祉施設小委員会の活動をまとめたものであり、音、熱、光、空気といった環境要因を横断的に捉える環境設計運営委員会としての成果となった。 <p>シンポジウム「高齢者の室内環境～快適な生活を支援するために」の開催については、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム開催は当初の予定にはなかったが、小委員会成果の周知に役立つとの判断から開催を決めた。 2. 会員だけでなく、介護職員やヘルパーが討論のパネリストとなった。 3. 参加者は会員だけではなく、福祉関係者など一般から多数の参加があった。 4. 会場で上記の単行本を販売した。 5. 終了後のアンケートでは「在宅介護空間・環境整備の手法、マニュアル整備が遅れている中、大変参考になった」「現場への実践に使える情報が得られた」など、参加が有意義であったとする回答が得られた。 <p style="text-align: right;">以上</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。